

琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.67
2018. July

発行者 琉球病院事務部長
秋好 輝雪

基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

<チャーびら祭について 行事委員会>

庶務班長 竜口 宗治



平成30年6月7日(木)、あしびなー体育館において行事委員の三大行事である「チャーびら祭」が開催され、午前74名、午後76名の患者様が参加されました。

プログラムのオープニングでは、琉星保育園の可愛らしい子供達のダンスが披露され、会場からは「かわいい」等の黄色い声援も飛んでいました。

さらに西病棟太鼓クラブの太鼓、デイケアメンバーによるダンス、看護師による日舞や医師のピアノ演奏などが披露され、普段見られないスタッフの姿に驚いている患者様もいて、アンコールが出るなど、最高の盛り上がりとなりました。

患者様も負けずに、14名の方がカラオケを熱唱され、3位までの方に、賞状と賞品が渡され大変喜んでおられました。

患者様が大笑いしている姿、熱唱している姿、チームを必死に応援し盛り上げる姿、息の合ったリズムカルなダンス姿、お子様、患者様、スタッフが一緒に楽しんでいる姿は、純粋な場で、本来あるべき人と人との繋がりや場だと感動しました。

今後も、親しみを有する関係作りを目指し、患者様の療養環境に彩りを添え療養生活に対する取り組みを積極的に行っていくよう、行事委員一同、全力で企画・運営を行なって参ります。



院長

福治康秀(ふくじ やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、
首里高校卒。

1993年琉球大学医学部卒、
琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年
琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、
2010年副院長を経て2014年琉球病院院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。



診療科

- ・一般精神科
- ・こども心療科
- ・物忘れ外来
- ・アルコール依存症等外来

病床数 406床

- ・精神科病棟 181床
- ・認知症 50床
- ・アルコール 54床
- ・児童思春期
ユニット 4床
- ・重症心身
障がい 80床
- ・医療観察法 37床



那覇市からのアクセス



●アクセス

路線バス/ 那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖場バス
[77番名護東線]浜田バス停下車徒歩3分
自動車/ 那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護方向5分

トピックス

行事・出来ごと

- ③ 病棟等建替 進捗状況 本体工事：新病棟(第1期工事)完成 平成27年7月
- 整備の動き 雨水配水管管替工事 完成 平成29年2月
- 新病棟(第2期工事) 完成予定 平成30年10月

教育・研修

- ③ 健康フェスタ 日時：平成30年7月3日(火) 10:30 ~ 13:00 場所：かねひで金武店駐車場
内容：血圧測定 酸素濃度測定 体脂肪測定 骨密度測定 健康相談等
- ③ 高校生ふれあい看護体験 日時：平成30年7月27日(金) 13:00 ~ 16:00 場所：研修棟会議室
内容：院内施設見学 看護師体験等

地域医療連携室だより

琉球病院では、受診相談や地域、行政、他医療機関からの窓口として地域医療連携室を設置しております。一般精神をはじめ、アルコール依存症(アディクション全般)、治療抵抗性統合失調症治療薬で効果のあるクロザピンによる治療、児童思春期外来といった様々な疾患をお受けできる診療体制を整えております。また、中北部圏域を中心とした地域の皆様によりよい質の医療を提供し、適切な対応ができるよう充実した取り組みを行い、地域のニーズに応えられるよう日々努力していきたいと思っております。また、受診のご相談はお気軽に地域連携室までお問い合わせください。



空床状況
6月29日現在

精神科病棟
4床

認知症
4床

アルコール
6床

児童思春期ユニット
2床

※ 入院予約に関するお問い合わせは地域医療連携室へご相談下さい。

NHO PRESS~国立病院機構通信~について

琉球病院は、国立病院機構(NHO: National Hospital Organization)という143の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。

国立病院機構(NHO)という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する「NHO PRESS~国立病院機構通信~」を発行しています。外来ロビーに設置していますので、ぜひご覧になってください。

なお、ホームページに最新号と過去のもの掲載していますので、そちらもぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。



お問い合わせ時間
8:30~17:15 (土・日・祝日以外)
TEL: 098-968-2133 (代)
内線: 231・234
地域医療連携室(直通)
TEL: 098-968-3550
FAX: 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピンの治療状況

平成22年から治療抵抗性統合失調症の患者様に対してクロザピン (CLZ) 治療を開始し、全症例は238例になりました。平成30年5月のCLZ導入は2例で、いずれも他の病院からのご紹介の患者様(入院中2例、通院中0例)でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様も多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も少なくなり、隔離は解除できています。週に3回の専門外来も行っていきますので、患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT (修正型電気けいれん療法) の治療状況

当院では、m-ECT (修正型電気けいれん療法) による治療を行っております。平成30年5月の治療実績はありませんでした。

こども心療科

相手の気持ちが分からない、想像力が乏しいなど、対人面の苦手さや、学習上の困難さを抱える子どもたちの中には、対人スキルや感情統制の弱さだけでなく、認知機能の弱さが背景にあることが多いと指摘されています。つまり、周囲の必要な情報を正確に認識したり、適切に注意を向けたりすることが難しいために、チグハグな行動をしてしまったり、“困った行動”をしてしまいがち、というのです。そのような子どもたちへのアプローチとして、近年、コグトレという方法が行われるようになってきています。

当院のこども心療科でも、コグトレを取り入れたグループを昨年度から開始し、今年6月からは第2クールが始まりました。対象は、小学校4～6年生の対人関係の苦手さがある子どもたちで、個別のワークや小グループでの活動を通して、“見る力”や“聞く力”、“他人とのやりとり”を身につけていけたらと考えています。第1クールでも、子どもたちは楽しみながらワークや運動に取り組んでくれたり、意外な才能を見せてくれました。第2クールでは、どんな変化や新しい発見ができるか、楽しみにしています。

認知症医療

当病棟には担当の作業療法士がおり、認知症作業療法を行っています。認知症作業療法は、患者さんの残存機能に働きかけ、運動機能の改善・維持や、視覚・触覚から入る刺激による脳の活性化を図る目的があり、カラオケ・手工芸・ふまねっと・調理など多種多様なプログラムを提供しています。これからも、患者さんが楽しみながら取り組める認知症作業療法を、病棟スタッフ全員で協力し、実施していきたいと思っております。

重症心身障がい医療

琉球病院の新重症心身障害病棟及び療育棟が平成30年7月に竣工となります。昭和51年7月、小児1病棟開設(40床)、翌年4月には小児2病棟(40床)が開設し、平成3年7月に病棟名が西病棟と変更になりました。名護養護学校(金武分校)への通学がはじまり、短期入所事業の開始や病棟増改築、措置制度から契約制度への移行、療養介護事業・医療型障害児入所支援へと移行し、時代の変革と共に西病棟は歩み続けてきました。開棟から41年経過した現在、建物は雨漏りや破損等の老朽化が目立つようになりました。平屋建ての中庭のある病棟。病棟からすぐに戸外に出られることは大きな魅力でした。たくさんの思い出が詰まった西病棟、今までありがとう!

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い「飲酒欲求」を直接和らげてくれる作用があります。当院では5月末現在、外来通院の患者様91名、入院中の患者様17名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。また、当院の外来での調査では、レグテクト内服を継続している患者様のほうが、治療継続率が高いという結果も出ております。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療

平成30年5月の訪問看護利用件数は、713件で新規・再開は3名の利用者様の申し込みがありました。月別平均では、33件の訪問看護の展開となりました。

梅雨があけ、陽ざしがつよく気温も高くなり本格的な夏に入りました。真っ青な空と、キラキラ輝く海の変化を感じます。気温が高くなると、熱中症を引き起こす頻度が高くなります。汗汗にて水分や塩分が失われ、家の中にも熱中症になることもあるため訪問看護でも、常に注意喚起の声をかけを行っています。熱中症の予防方法を訪問看護利用者様と話し合い、夏をのりきれる為の対策を一緒に考えていきたいと思っております。

臨床研究部活動状況

『災害時における医療観察法病棟避難の方法論の検討』 副院長 大鶴 卓

災害時においても対象者の安全確保、医療提供の確保、医療観察法の順守が可能となることを目的に本研究開発分担者と研究協力者がDPAT (Disaster Psychiatric Assistance Team: 以下DPAT)事務局及び厚生労働省担当者等と協議し、医療観察法災害ガイドラインを作成した。当ガイドラインは被災した指定入院医療機関及び指定通院医療機関が適切な医療の実施ができない場合の転院に力点を置いた内容となっている。災害時に転院等を円滑に行うために、指定入院医療機関はDPAT隊を必置する必要がある。

しかし、極めて大規模の災害や想定外の災害の場合は当ガイドラインで対応が難しい可能性も残されている。今後は、机上訓練や実働訓練において当ガイドラインを使用すること、厚生労働省、法務省、DPAT事務局等の様々な関係機関から意見聴取を行うこと等を通じ多角的な検証を行い、必要時に改定を行う必要がある。

医療観察法災害ガイドライン素案は厚生労働省ホームページよりダウンロード可

平成29年度国立研究開発法人 日本医療研究開発機構委託研究 長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業(精神障害分野) 医療観察法における、新たな治療介入方や、行動制御に係る指標の開発等に関する研究 研究開発分担報告症 研究要旨より抜粋